

# 2026年度 須磨学園高等学校入学試験

## 学力検査問題

# 国 語

### (注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、  
受験番号シールを貼り、受験番号を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
3. 解答は、1行の枠内に2行以上書いてはいけません。また、字数制限のある問題については、記号や句読点も1字と数えることとします。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

須磨学園高等学校

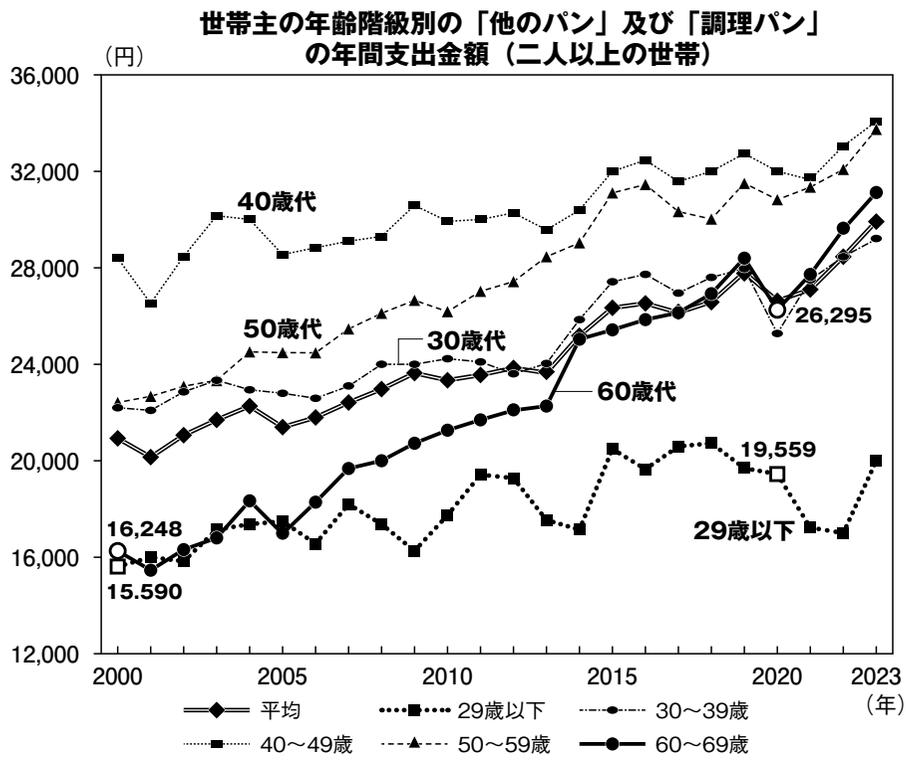
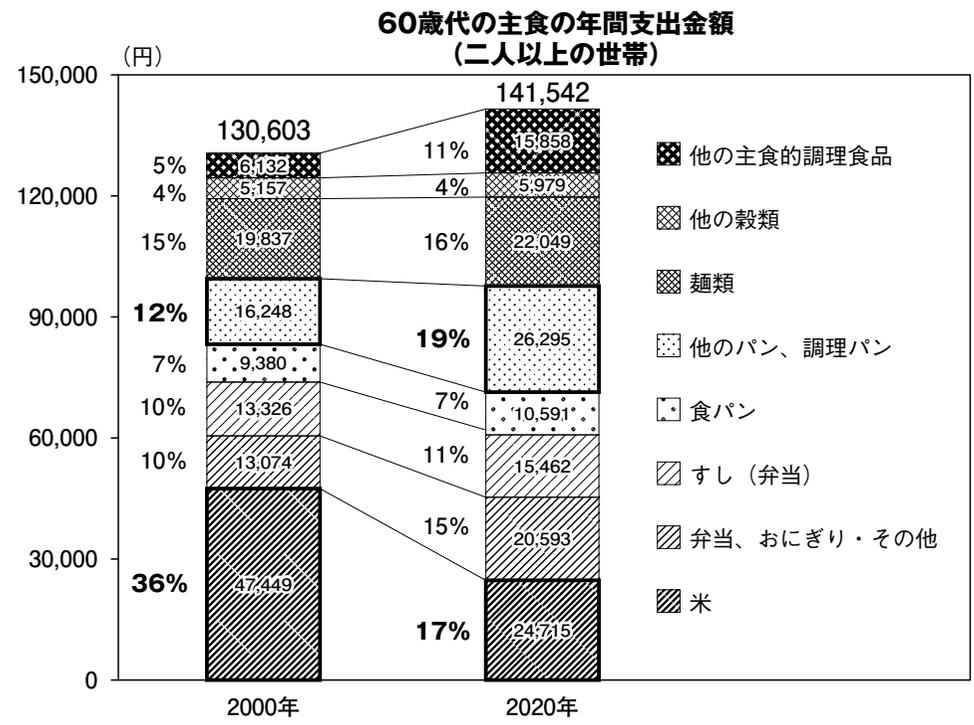


【一】 中学校三年生の生徒A・生徒B・生徒C・生徒Dの四人は兵庫県と米の関係について発表することになりました。次の〈資料1〉〈資料2〉〈資料3〉〈メール〉〈発表用原稿〉を参考にしながら【会話文】を読んで、後の設問に答えなさい。

【会話文】

生徒A 去年は米の値段が話題になったね。  
 生徒B 毎日食べるものだから、値段が上がったり手に入りにくくなったりしたら困るね。  
 生徒C 令和の米騒動なんて言われてるね。  
 生徒A 昔から米と生活は密接に関係しているもんね。  
 生徒D それに、去年の夏は雨があまり降らなかったみたい。ということは今も米不足になりそうだ。浮足立っちゃおうよ。  
 生徒B 昔に比べたら米以外にも主食が増えたよね。醤油ラーメンとか味噌ラーメンとか。  
 生徒C ラーメンばかりじゃない。  
 生徒A たしかに最近は米の需要が減っているみたいだよ。  
 生徒D やっぱ若者の米離れが進んでいるのかな。  
 生徒B え、ラーメンにも米は合うのに。  
 生徒C それはちよつと違くない？  
 生徒A 案外米離れは若者だけの問題ではないみたい。〈資料1〉を見て。  
 生徒B ちよつと待って。米離れてなに。  
 生徒C うるち米、つまり普段主食として食べている米の消費量が減少していくことだよ。米だけでなくパンや麺類を食べる人が増えているってこと。  
 生徒D ここ二十年で「他のパン」と「調理パン」への支出が最も増えたのは60歳代なんだね。  
 生徒B それに、需要の低下は、人口の減少が拍車をかけているようだ。  
 生徒A たしかに、需要量は一人当たりの消費量×総人口で算出されているものね。  
 生徒C ということは、国民全体の米離れを見るには一人当たりの摂取量に着目すべきなんだ。  
 生徒D 兵庫県でも米を作っているよね。やっぱり不作の影響を受けているのかな。  
 生徒B 兵庫県の収穫量はほぼ一緒だね。  
 生徒C 〈資料3〉を見ると、主食用以外にも栽培されているんだね。  
 生徒A いまネットで調べたら、醸造用米（酒米）の生産量は全国一位だって！  
 生徒D ということは、D。

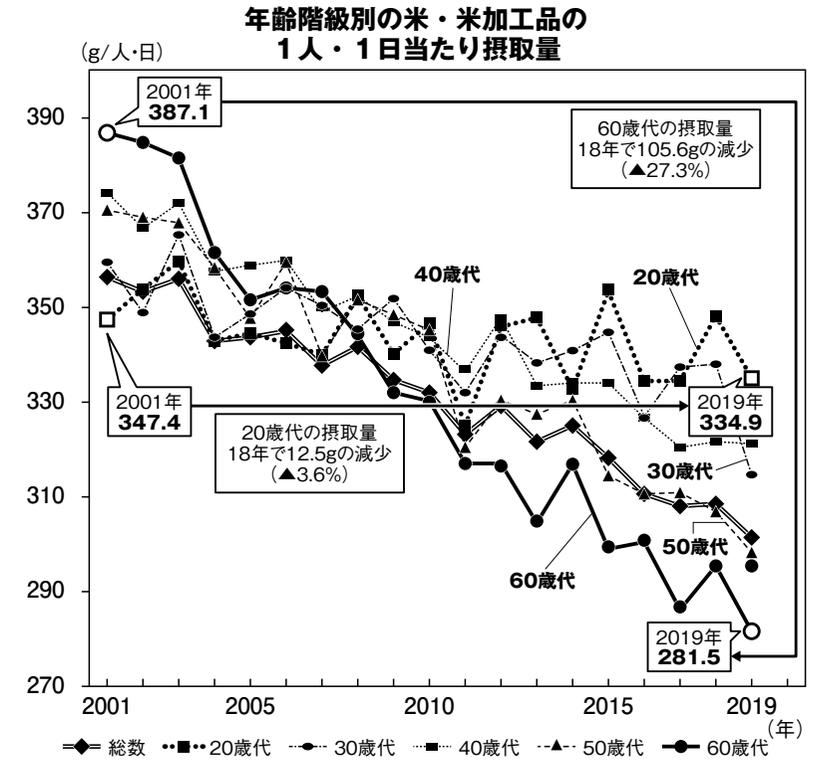
〈資料1〉



※ 「他のパン」とはあんこやバターなどを加え、一つに成形されているものを指す。また「調理パン」とは加工品（焼きそばやソーセージ）を挟んだものを指す。

（農林水産省） 「米の消費及び生産の近年の動向について」による

〔資料2〕



※ 米・米加工品の分類には以下の食品が含まれる。

米：玄米、精白米、発芽玄米、粥<sup>かゆ</sup>など。

米加工品：アルファ化米、おにぎり、もち、赤飯、上新粉、米粉など。

(農林水産省)

「米の消費及び生産の近年の動向について」による

〔資料3〕

令和5年度水稲の道府県別作付割合 (総収穫量順)				
順位	道府県	うるち米	醸造用米	もち米
1	新潟県	92.2%	2.3%	5.5%
2	北海道	90.7%	0.5%	8.8%
3	秋田県	94.0%	0.9%	5.1%
4	山形県	96.3%	1.2%	2.5%
5	宮城県	97.4%	0.2%	2.4%
.....				
14	兵庫県	83.0%	15.4%	1.6%

データは公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構  
「令和5年産 水稲の品種別作付動向について」による

資料は、裏面に続きます。

## 〈発表用原稿〉

### 日本一の酒米所、兵庫

第1班 発表者 A,B,C,D

このテーマを選んだ理由：酒米は中学生にはなじみがないため、兵庫県の酒米の生産量が日本一であることは知られていない。しかし誇るべき文化であるため中学生にも理解をしてほしいから。

#### 1. 兵庫県の稲作（データは全て令和5年度のもの）

兵庫県の米の生産量は全国で14位ですが、酒米（醸造用米）の生産量は全国1位です。その数なんと26,015玄米トン。2位の新潟県が11,268玄米トンなので、2倍以上の生産量を誇ります。

#### 2. なぜ酒米が盛んなのか

酒米造りに適している条件は「昼と夜の寒暖差が大きい」「水がきれい」「肥料成分の保持力が高い土壌がある」ことです。酒米の中でも有名な「山田錦」作りが盛んな北播磨地域は標高50~150mの山間地のため寒暖差が大きく、近くには加古川や揖保川が流れています。また兵庫の土地はミネラルを多く蓄える粘土質の土壌があります。これらの条件がそろった兵庫県は酒米所になるのです。

#### 3. 兵庫県の銘柄

兵庫県では数多くの酒米が育てられています。銘柄品種数も全国1位です。その一部を紹介します。

○山田錦：酒造好適米のうち酒造家から非常に人気がある品種。生産量は全国の約6割を占めている。

○兵庫夢錦：西播磨地域に適した酒造好適米。大粒で心白の発生が良く、酒造適性が高い。

○兵庫北錦：本県の但馬、丹波地域に適した酒造好適米。耐倒伏性が強い。

この3種類は全て兵庫県で配合、育成されました。

#### 4. 酒米農家の方へのインタビュー

実際に兵庫県内で酒米農家をされている稲舞作太郎さんにお話を聞きました。

（以下省略）

#### 5. まとめ

兵庫県は全国1位の酒米生産量でありながら、お酒に縁がない私たちにはあまり知られていません。

しかし私たちが早くからこの酒と酒米の名産地という誇りと受け継がれてきた伝統を知ること、この文化が次世代へと継承されていきます。皆さんもあまりなじみのない文化でも、興味を持って調べてみてください。きっと兵庫のことがもっと好きになりますよ。

## 〈メール〉

件名：インタビュー取材のお願い 須磨中学校 須磨太郎

宛先：sakamaimaclub@kome.co.me

稲舞 作太郎 様

突然のご連絡、申し訳ありません。

須磨中学校の須磨太郎と申します。

現在授業にて「兵庫県と米の関係」を調査しており、私たちは「日本一の酒米所、兵庫」をテーマにしています。

酒米農家である稲舞作太郎様の新聞記事をご覧になり、取材をさせていただきたくご連絡いたしました。

ご多忙の所、大変恐縮ではございますが、下記内容にてご検討いただけないでしょうか。

取材内容：ここ数年の酒米の傾向、主な出荷先、酒米の魅力など。

取材目的：酒米生産量全国1位である兵庫県の魅力を調査するため。

取材候補地：須磨公民館・須磨中学校・稲舞様のご自宅

取材方法：インタビュー

日時に関しましては、11・12月でご都合のよろしい日時をお知らせいただけますと幸いです。

取材時間は2時間を予定しております。

ご質問などありましたらお問い合わせください。

唐突なお願いで恐れ入りますが、何卒お力添えをいただけますようお願いいたします。

須磨中学校 須磨太郎

学校電話番号：123-456-7890

【一】の設問

問一 「違くない」(——線部A)について、「違くない」という語句は文法上誤っています。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「違う」は未然形が「違く」と活用しないから。
- 2 「違う」はカ行変格活用だから。
- 3 「ない」は仮定形と接続するから。
- 4 「違くない」は本来は「違うくない」だから。

問二 『他のパン』と『調理パン』への支出が最も増えたのは60歳代なんだね(——線部B)について、〈資料1〉の年間支出金額に関する二つのデータの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 20年の60歳代の主食の全体の年間支出金額は00年に比べて増加しているが、「米」の項目の年間支出金額はこの二十一年間で三分の一以下になっている。
- 2 どの年代も『他のパン』及び『調理パン』への支出金額は19年から20年で一度減少しているが、その減少量は29歳以下が最も少ない。
- 3 00年から23年まで、毎年40歳代の『他のパン』及び『調理パン』への支出金額が最高である。中には、60歳代の二倍以上の支出金額の年もある。
- 4 03年から23年までの二十一年間で、『他のパン』及び『調理パン』への支出において29歳以下の支出金額が60歳代の支出金額を上回ったのは三回だけである。

問三 「一人当たりの摂取量」(——線部C)について、〈資料2〉をまとめた次の文章の□に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

60歳代の米・米加工品の1人・1日当たりの摂取量は01年と比較して、19年は105.6g減少している。これは01年の約27.3%減少していることになる。  
対して20歳代の摂取量は12.5g減少しており、これは01年の約3.6%減少していることになる。  
したがって□と言える。

- 1 60歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合は、20歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合より約10%多い。
- 2 60歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合は、20歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合の十倍以上である。
- 3 60歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合は、20歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合の七倍以上である。
- 4 60歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合は、20歳代の米・米加工品の摂取量の減少割合より約35%多い。

問四

□Dに入る言葉は〈資料3〉を参考にしたものです。

空欄に入る言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 兵庫県は他県に比べて、水害や干害の影響を受けやすいのかもしれないね。
- 2 兵庫県は他県に比べて、水害や干害の影響を受けにくいかもしれないね。
- 3 兵庫県の稲作は他県に比べて、米離れの影響を受けやすいのかもしれないね。
- 4 兵庫県の稲作は他県に比べて、米離れの影響を受けにくいかもしれないね。

設問は、裏面に続きます。

問五 生徒Aたちは発表に向けて、酒米農家の方にインタビューをしたいと思い、農家に送るインタビューの依頼文をメールで送ることにしました。次の会話はメールを送る時に気を付けるべきことについて話し合ったものです。会話の後に作成した〈メール〉の中の表現や内容について、誤りを指摘した文として最も適当なものを、後の【選択肢】の中から一つ選び、番号で答えなさい。

生徒A 農家の方にインタビューをしたいんだけど、どうすればいいかな。

生徒B メールを送ればいいんじゃないかな。

生徒A 大人の方にメールを送ったことがないんだけど、何を書けばいいんだろう。

生徒B まずは敬語を使わないといけないよね。普段、先生にはあんまり使ってないけど。

生徒C そこはちゃんとしようね。メールの内容はどんなものが必要かな。

生徒D いきなりインタビューしても答えづらいだろうから、聞きたい内容はあらかじめ伝えた方がいいんじゃないかな。

生徒A たしかに。インタビューの日程を決めるには何を伝えればいいだろう。

生徒C かかる時間と、どこするかは大事だね。向こうの家に行くのは準備も大変だろうから、いくつか候補の場所を考えよう。

生徒B 公民館とかどう。会議室とか借りられると思う。

生徒C いいね。あとは学校とか。

生徒D 友達と会うときは、お母さんがお菓子を持たせてくれるけど、今回も必要かな。

生徒A 中学生だから必要ないんじゃないかな。でも何もしないのも失礼だね。インタビューが終わったらお礼のメールを送ろう。

#### 【選択肢】

- 1 取材は相手の時間をいただくため、お礼の品を用意することを取材相手に伝えなければならない。
- 2 取材場所は、生徒の安全とプライバシー保護の観点から学校にしなければならない。
- 3 「〈覧になり〉」は尊敬語なので、「拝見し」に変えなければならない。
- 4 取材内容はその場で変わる可能性があり、混乱を避けるためメールに明記してはいけない。

問六 インタビューと自分たちの調査をもとに、〈発表用原稿〉を作成しました。〈発表用原稿〉に用いられている工夫の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「1. 兵庫県の稲作」から「3. 兵庫県の銘柄」までは明確に数字を用いて説明しているが、これは発表内容を具体的にし、わかりやすくする効果がある。

2 具体的な地名や河川名などを出すことで、小中学校で学習した地理を復習しつつ、兵庫県への郷土愛を強める効果がある。

3 「このテーマを選んだ理由」と「5. まとめ」の内容を対応させることで、論理性より感性を重視した発表であると感じさせる効果がある。

4 「5. まとめ」で話しかけるように書くことで、読者に当事者意識を持たせ、稲作や米に興味を持ち、米農家への就業意識を高めさせる効果がある。

【二】 次の【漢文】は『世説新語』の一節です。【漢文】と【書き下し文】を読んで、後の設問に答えなさい。

【漢文】

王東亭與謝公交惡。王在東、聞謝喪、便出都、詣子敬道、「欲哭謝公」。子敬始臥、聞其言、便驚起曰、「所望於法護」。王於是往哭。督師刀約不聽前。曰、「官平生在時、不見此客」。王亦不與語、直前哭、甚慟。不執末婢手而退。

【書き下し文】

王東亭と謝公と交り悪し。王東に在り、謝の喪を聞き、便ち都に出でて、子敬に詣り道ふ、「謝公を哭せんと欲す」と。子敬始めて臥せしが、其の言を聞き、便ち驚き起ちて曰く、「法護に望む所なり」と。王是に於いて往きて哭す。督師刀約前むを聴さずして曰く、「官平生に在りし時、此の客に見えざりき」と。王も亦た與に語らず、直ちに前みて哭し、甚だ慟す。末婢の手を執らずして退く。

- 注1 交惡…王東亭は、謝氏の家に婿入りしたが、謝公との不仲が原因で離婚した。
- 注2 子敬…王氏の一族で、王東亭の弟分にあたる。
- 注3 哭…「人の死を弔い泣く」の意。
- 注4 始…「はじめは」の意。
- 注5 法護…王東亭のこと。「法護に望む所なり」は、「王東亭の意に従う」ということ。
- 注6 於是…「この時」の意。
- 注7 督師…ここでは謝公の葬儀を取り仕切る人のこと。刀約は謝公に仕えていた。
- 注8 官…謝公のこと。
- 注9 慟…「大声をあげて泣く」の意。
- 注10 末婢…謝公の末子の謝琰のこと。
- 注11 手を執らず…弔問では喪主（ここでは謝琰）の手を取るのが礼儀とされている。

問一 「道」(——線部A)と同じ意味で「道」を用いた熟語として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 道場 2 道理 3 道路 4 報道

問二 「欲哭謝公」(——線部B)について、【書き下し文】の読み方になるように返り点をつけなさい。送りがなはつけてはいけません。

問三 「起」(——線部C)、「曰」(——線部D)の主語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。なお、解答における番号の重複使用は可能とします。

- 1 王東亭 2 謝公 3 子敬 4 刀約

問四 「官平生在時不見此客」(——線部E)の訳として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 謝公は生きていたとき、不仲になった王東亭とは面会しなかった。
- 2 謝公は生きていたとき、どの客人とも目を合わせることができなかった。
- 3 刀約は謝公に仕えていたとき、王東亭と和解を求めていた。
- 4 刀約は謝公に仕えていたとき、王東亭を追放していた。

問五 本文の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 王東亭は、心から謝公の死を弔ったため、刀約は王東亭に理解を示した。
- 2 王東亭は、謝公と相容れない関係だったが、謝公が死去したときには弔い号泣した。
- 3 王東亭は、友人を弔い、礼儀作法を重んじる徳のある人物として描かれている。
- 4 王東亭は、泣き止んだ後、身分の低い召使の手を借りずに、自分で帰宅した。

三

次の文章は、『土佐日記』の中の一節です。作者は、都から派遣された先の土佐国（現在の高知県）で、任期中に自身の娘を亡くしました。以下の文章は、任期を終えた後の場面を描いたものです。これを読んで、後の設問に答えなさい。

十一日。暁に舟を出だして、<sup>注1</sup>室津を追ふ。人まだ寝たれば、海のありやうも見えず。ただ月を見てぞ、西東をば知りける。かかる間に、みな夜明けて、手洗ひ、<sup>注2</sup>例のことどもして、昼になりぬ。今し、羽根といふ所に来ぬ。若き童、この所の名を聞きて、「羽根といふ所は鳥の羽のやうにやある」と言ふ。まだ幼き童の言なれば、人々笑ふ時に、ありける女童なん、この歌を詠める。

ア まことにて名に聞くところ羽ならば

飛ぶがごとくに都へもがな<sup>注4</sup>

とぞ言へる。男も女も、「いかでとく京へもがな」と思ふ心あれば、この歌「よし」とにはあらねど、「げに」と思ひて、人々忘れず。この羽根といふ所問ふついでにぞ、また昔の人を思ひ出でて、<sup>注7</sup>いづれの時にか忘るる。下りし時の人数足らねば、<sup>注9</sup>古歌に、「数は足らずぞ帰るべらなる」といふ言を思ひ出でて、人の詠める。

イ 世の中に思ひやれども子を恋ふる

思ひにまさる思ひなきかな

と言ひつつなむ。

注1 室津を追ふ：「室津」は現在の高知県の地名。「追ふ」は

ここでは「目指す」の意。

注2 例のこと：「いつものこと」「普段行うこと」の意。

注3 にやある：「であるのか」の意。

注4 もがな：願望の終助詞。ここでは「～したい」の意。

注5 いかでとく：「何とかして早く」の意。

注6 昔の人：作者の亡くなった娘を指す。

注7 いづれの時にか忘るる：「いつになったら忘れられようか、いや、忘れることはできない」の意。

注8 下りし時の人の数足らねば：「都から土佐国に来た当初の人数に（現在の人数が）満たないので」の意。

注9 古歌に、「数は足らずぞ帰るべらなる」：「古歌」は『古今和歌集』を指す。これに収められている「北へ行く雁ぞ鳴くなるつれてこし数は足らずぞ帰るべらなる（春が来て北国

に飛び帰る雁の鳴き声が聞こえてくる。悲しそうに鳴くのは、来る時に一緒に来た数が足りなくて帰るからなのだろう）の一部を踏まえている。「べらなる」は「～のようである・～だろう」の意。

三の設問

問一 この作品の作者として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 清少納言
- 2 本居宣長
- 3 紀貫之
- 4 鴨長明

問二 アの和歌について、「都へもがな」とありますが、何を「したい」のですか。当てはまる行動として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 空を飛ぶこと
- 2 都に帰ること
- 3 手紙を出すこと
- 4 連れて行くこと

問三 『よし』とはあらねど、『げに』と思ひて「——線部」とありますが、これは『良い』というわけではないが、『本当にその通りだ』とあって「——」という意味です。人々がこのように思ったのはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 旅の人々が都へ帰れず落ち込んでいる中で、雰囲気を良くしようと女兒が努力していたから。
- 2 旅の人々は、都への強い思いを持っており、その心情を詠みこんだ女兒の和歌に共感したから。
- 3 旅の人々が話していたことを歌に詠んだため、女兒の周囲の人々を見る観察力に驚かされたから。
- 4 旅の人々は、女兒の前向きな和歌に励まされ、旅をずっと続けたいという気持ちになったから。

問四 イの和歌に関して、その解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 この世で、子を恋しく思う気持ち以上に強い思いはないのか。
- 2 この世で、子を愛しく思わない人はいない。
- 3 この世で、子を恋しく思わない人はいないのか。
- 4 この世で、子を愛しく思う気持ちは何よりも強い。

問五 本文に関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 作者は、土佐国で失った自身の娘のことを今後忘れられないだろうと強く思っている。
- 2 アの和歌は、室津を出発して羽根を経由して土佐国へ向かう時に詠まれた和歌である。
- 3 一行が訪れた羽根という場所は、その名前が鳥の羽に由来する場所だと本文では示されている。
- 4 人々が、真夜中に船を出している時に、その他の人々は普段はしないことをしていた。

四

次の文章は、中條てい『アイミタガイ』の一節です。小学六年生の「ぼく」（樋口敦俊）は、英光中学を受験し、合格が確定視されていましたが、結果は不合格でした。「ぼく」は結果を受け入れられませんでしたが、塾の先生に不合格を報告しなければならず、夕方には塾の祝賀会もありました。気が重いまま自転車で塾に向かっていた「ぼく」は、途中でひったくり犯と遭遇し、被害にあった「おばさん」（星野政恵）を助けます。その後、「ぼく」は「おばさん」に連れられて、昼食を共にすることになり、英光中学の受験の話題になりました。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

「えーと、名前なんやったっけ？ 明石さんこのボクやけど、知ってる？」

明石くん……どこまでついてくるんだ。

「あの子のおばあちゃんと親しくてね、よく聞かされてるのよ。昨日が発表？ 受かったって奇跡みたいによるこんで、わざわざ知らせに来たわ。よっぽどうれしかったんやろね」

ずっとこの話を聞かされるのかと思うと、心がずきずきと痛んだ。ぼくは耳を素通りさせようと食べることに没頭したけれど、おばさんの声がそうはさせなかった。

「あの子、絶対受からんって言われてたらしいね。志望を変更しろって勧められたときは泣いて、暴れて大変やったみたいよ。孫が蹴り破ったって、襖ふすまにこんな穴あいてるのを見せてもらったわ」  
A ぼくは顔を上げた。おばさんが両手の指を合わせて作った丸の中に明石くんの顔がすっぽり浮かんだけれど、あのおもしろいことばかり言う子が本当にそんなことをしたのだろうか。

「なんでそこまでして英光へ行きたいのかはようわからんそうやけど、孫が悔しがるのがかわいそうで、試験日がちがうのなら両方受けてみるって受験料出してやったそうよ。駄目もとなんて言うけど、やっぱり挑戦してみるものね」

うん、とはうなずけなくて黙って聞いていると、おばさんは調子に乗ってもっと話し続けた。

「あの子、体が小さいじゃない。サッカーやってもレギュラー取れへんし、低学年のときもよう怒ってたよ。おばあちゃんの前ではえらい駄々っ子やったけど、そうやって吐き出す相手もいてくれなきゃ、子ども大変よね」

カレーを口に運んだおばさんは、「ああ、おいし」と声を出してメロンソーダを飲んだ。

「樋口くんは第二小学校だけど、四月からは明石さんこのボクと同級生になるってことやね」

ぼくは口をつぐんだまま下を向いていた。

「ちがうの？」

「ぼくは、英光落ちたから」

B 「えっ、なんで？」

それはこっちが教えてほしい。それよりも、こんな聞き返し方ってあるか！ 正直に白状したっていうのに。ぼくは、むっとした気持ちを顔にあらわした。

「ごめん。そやけど、どう見たってあんたの方がずっと賢そうな顔してるさかい……。失敗したん？」

ぼくは、おばさんのペースに乗せられてうんと答えてしまった。

「わあ、そうか。それは残念やったね。けど、いっしょの大学に受かったら中学がどこでも同じことだしね」

おばさんはあっさりと言ったのけて、きりりと口を結んだ。

「今の樋口くんはしょぼりしてるけど、三十歳になったとしてごらんよ。中学に落ちたことなんか鼻くそくらいにしか思ってないわ。でも、ひったくりに自転車ぶつけてやつけたのは、そう誰にでも経験できることやないでしょ。大人になったら、あんたの今日という日は痛快な思い出よ。そう思うやろ？」

カレーを食べ終えると、おばさんはもうぼくにたずねもしいで追加の注文をした。ぼくも開き直って、遠慮なんかするものとドリンクバーへ二杯目を取りにいき、今度こそメロンソーダを注いだ。シユワシユワと弾ける泡の香りを嗅ぎつつ、これをテー

ブルに持ち帰ったときの、あの人を想像した。

「そやろ？ やっぱりそれよ」

指を立てる仕草も、言ったことも、思ったとおりだ。無意識に笑ったらしく、おばさんはそんなぼくに目を細めた。

「樋口くん、体は大きいけど笑うとやっぱり小学生やね。かわいいわ」

照れくさくなってぼくは目をよそへ泳がせた。

「小学生のうちからいろんな思いを味わうんやから、あんたらは大変やねえ。ごめんね。うちには中学受験するようないてへんから、気に障ること言うたかもしれないね。だけどさ、試験に受かった落ちたなんて、これから先いくらでも挽回ばんかいできることだよって伝えたかったの。これはホントだよ。祝賀会だか打ち上げ会だか知らないけど、わつと騒いで早く吹っ切ってきたらいいわ」

「……………」

「あるんやろ？ なんでも知ってるよ、注 民生委員だもん」

「え？」

「うそうそ。今朝、おとなりさんから聞いたこと思い出したの」

一瞬、本当に民生委員ならそんなことも知っているのかと信じ込んでしまった。

問題文は、裏面に続きます。

「そや！ 今日あの子に会ったら、となりの星野政恵のバッグ取り返したって自慢してやって。びっくりするやろねえ」

「え？ ぼくは……」

「なんで？ いかへんの？」

「ママが……いかな方がいいって……」

しまった！ なぜこんなことをうっかりもらしてしまったのだろうか。ぼくは、はっとなって口をつぐんだ。すると、おばさんはぽかんとぼくを見て、やがてはあんと苦笑いした。

「ママの言うことがわからんでもないけどね。親にしてみたら、ちょっとでもつらいことは避けさせてやりたいものね。そやけどねえ……。せつかく落ちたんやもの、ここで転け方覚えやなあかんと思うわ。あんたもママも」

おばさんはこのあと、柔道の話を持ち出した。技のかけ方を習う前に受け身をしっかりと覚えるのは転び方の会得がよほど大切だからだ。うまく転ければ立ち上がるたびに上達していくが、へたに転べば大怪我をする。なにごとと同じことが言えるのではないかといとおばさんの話には、意外にも説得力があった。

「まあ、あんたが決めることやけどね。ママもいくなど言ってるんじゃないと思うの。かわいいあんたを傷つけないだけだよ。でもね、転んで立ち上がるあんたを見たら、ママは何倍もうれしいはずやわ。これはママにもまだわからへん。あんたといっしょに転んで、ママもこういうことを覚えていくのよ。子育ては親育てって上手に言うたもんやね」

ママが育つ？ ピンとこないけれど、おばさんがママのことをあまり責めないでくれたことで、ぼくは素直に聞いていられた。腕の時計にちらりと目を遣って、おばさんはもう一杯ジュースのお代わりはどうかと勧める。もういいと断って、ぼくらは店を出た。

(中略)

一人になって、また携帯をいじった。とにかく誰かにメールを送ろう。ア行の明石くんがまっ先に出てきた。

『今日、何時だっけ？』

送信。あんなに迷っていたのに、意外にもあっさりボタンは押せた。むしろ、送ってしまったあとの方が心がじわんとする。手に握りしめたまま、返信を待った。こい、こい、と念じていたくせに、電話の着信が鳴って、ぼくはびくっと震えた。

——うっそ、電話？

少し心を落ち着けようとするぼくを、呼び出し音が早く、早くと急かしていた。

「もしもし……」

「あ、あっちゃん。あの……ぼくさ……」

<sup>E</sup> 明石くんの声は緊張しまくっていた。

「知ってる。受かったんだろ、英光。よかったな」

ぼくは自分でも驚くほど冷静に応えていた。

「う……うん。ありがとう」

泣きそうな声だ。

ぼくはその瞬間、はっと気づいた。明石くんは、ぼくにこの報告をしたかったんだ。それなのに、ぼくが落ちてしまったばかりに、たった今まで心から自分の合格をよろこぶ気持ちになれなかったのだろう。ぼくはこの二十四時間、そんなことをちっとも考えたことがなかった。

「今日、何時からだっけ？ 祝賀会」

「四時半集合だよ。先生の話がちょっとあって、そのあと、お寿司やお菓子が出るんだって」

——また、寿司か。

「あっちゃん？」

明石くんが心配そうにぼくを呼ぶ。

「ん？ ああ、わかった。四時半だね。いくよ」

「……うん。絶対だよ！」

明石くんの声は急に弾けた。電話を切ったあとも、絶対だよ、絶対だよ、とその声は鼓膜こまくの中で弾み続けていた。

ぼくはぽかんと口をあけて、メロンパンの遊具をながめていた。楽しいってわけでもないし、気分がいいっていうほどでもないけれど、胸につかえていたものは、もう痛くもなんともない。全部が吹っ飛んでいった気分だ。

そうだ、と思い出し、ママにもメールを打った。

『四時半から祝賀会いく』

一度帰ろうかと自転車にまたがったとき、早くもメールがもどってきた。

『OK、わかった』

大きなハートマークにはさまれて、笑顔が三つもならんでいた。

注 民生委員……地域の人々の相談に乗ったり、支援をしたりする人。

#### 四の設問

問一 次の(Ⅰ)～(Ⅲ)の各問に答えなさい。

(Ⅰ)「素通り」(——線部a)、「今朝」(——線部d)、「会得」(——線部e)の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

(Ⅱ)「口をつぐんだ」(——線部b)の本文中における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 無神経な発言に対して、言葉を失ってしまった。
- 2 言うべき言葉が見つからず、黙ってしまった。
- 3 思わず驚きの声をあげそうになったが、我慢した。
- 4 話題を変えようと考え込むあまり、無言になった。

(Ⅲ)「気に障る」(——線部c)とありますが、これと同様の意味を持つ言葉として適当でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 腹が立つ
- 2 頭にくる
- 3 鼻につく
- 4 面食らう

問二 ～～～線部1～4の表現の中で、擬音語を一つ選び、番号で答えなさい。

問三 「ぼくは顔を上げた」(——線部A)とありますが、このときの「ぼく」の気持ちの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 明石くんが志望変更を勧められても挑み続ける中で感情的になっていたことを知り、驚くとともに深い共感を覚えた。
- 2 明石くんが志望校の変更を勧められたとき、予想もしないような行為に及んでいたという、意外な一面を知り驚いた。
- 3 普段の明石くんの様子からは想像もつかない言動に驚き、明石くんの真剣さに気付けなかったから負けたのだと痛感した。
- 4 普段の明石くんの様子など知りたくもないのに、傷心している自分に話し続ける「おばさん」の非常識さに驚き呆れた。

問四 「えっ、なんで？」(——線部B)とありますが、「ぼく」の表情を見た「おばさん」についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 中学受験がうまくいかなかったも大学に行けば同じだと言いつつ、「ぼく」に大学合格に向けての道筋を示そうとしている。
- 2 中学受験に失敗したことは、未来の自分が見たらむしろこのほうが良かったと思えるはずだと励ましている。
- 3 ひったくり犯を捕まえたことは、中学受験の失敗よりも人生の良い経験になったと「ぼく」の主張を肯定している。
- 4 「ぼく」と明石くんを見た目で判断し、明石くんが合格して「ぼく」が不合格であるはずがないと思っている。

問五 「目を細めた」(——線部C)とありますが、このときの「ぼく」に対する「おばさん」の心情を表す言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 快哉かいかい
- 2 共感
- 3 慈愛
- 4 期待

設問は、裏面に続きます。

問六 「転げ方覚えやなあかん」(——線部D)とありますが、「おばさん」がこのように発言した理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「ぼく」と母親にとって、想定外の失敗でも、割り切った気持ちで切り替える経験を積むことが必要だと考えたから。
- 2 「ぼく」が同じ失敗を繰り返さないためには、母親と共に辛いことにも向き合うことが重要だと考えたから。
- 3 「ぼく」と母親が困難を乗り越えるためには、失敗したことを受けとめて、成長していくことが大切だと考えたから。
- 4 「ぼく」の失敗は母親にとっても試練であり、守ることはばかりでは母親の成長の機会を失ってしまうと考えたから。

問七 「明石くんの声は緊張しまくっていた」(——線部E)とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 相手を傷つけるかもしれないという不安と、自分の努力の過程を共有したいという思いの間で気持ちが揺れ動いていたから。
- 2 自分自身の合格を伝えることに迷いがあったため、相手に伝える言葉を選ぶことに慎重になり、動揺が声に表れてしまったから。
- 3 「ぼく」が失敗し、自分が合格してしまった事実にはまだに驚きを隠せず、思いがけない状況に複雑な後ろめたさを感じていたから。
- 4 自分が合格したことを伝えてしまうと、不合格になった「ぼく」が祝賀会に参加しなくなるのではないかと不安に思ってしまったから。

問八 「胸につかえていたものは、もう痛くもなんともない」(——線部F)とありますが、「ぼく」はなぜそのような感じたのですか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 明石くんの合格を祝福できるようになり、自分で祝賀会に行くことのできたから。
- 2 明石くんの苦しみに気づいて、お互いの本心を打ち明けて仲直りができるはずだと思ったから。
- 3 友情の温かさを実感し、それまで不合格を受け入れられなかった痛みが取り払われたから。
- 4 時間の流れや日常の出来事に気持ちが紛れ、重苦しい気持ち次第に遠のいていったから。

【五】 次の文章は、精神科医である木村敏の文章の一部です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

「生命」と〈生命〉

「生きる」というのは、とりあえずは、ある人が、あるいはその人の身体が、生命活動を保っていることです。この「とりあえずは」というところに、<sup>A</sup>ちよつと思いが入っています。「生きる」というのは、だれかが、あるいはだれかの身体が生命活動を保っていることだと、<sup>a</sup>そうソクザに断定的には言えない。それが「とりあえずは」ということです。ソクザには言えないんだけれども、まあ言ってみれば、「私が生きている」とはどういうことかという、私が、あるいは私の身体がその生命活動を保っている、失っていない、ということですよ。

しかし、だれかの（私のもいいし、ある人のもいいのですが）生命が生きているということは、そこに誰のものでもない、いってみれば「非人称」の生命が宿っているということです。この非人称の生命を、山カッコをつけて〈生命〉と書くことにします。それを「生命力」のような実体的な「もの」と I ください。先ほども言いましたように、「生命」というのはあくまで「生きる」という「こと」です。ここで山カッコをつけた〈生命〉というのも II 的な実体ではなく、動詞的にしか考えられない

働き、しかも、私とか彼とか彼女とかの個人的な働きではなくて、だれのものでもない非人称の働きのことです。しかし、普通に「生命」とか「生きている」とかいえば、これはだれかが、私や彼や彼女が、つまり身体をもった個人が、生きているということとです。

これはないへん難しいことですけども、私の今回のお話の全体にかかわることですから、<sup>B</sup>一度きちんと考えてみていただきたいのです。山カッコつきの〈生命〉というのは誰のものでもないのです。そういう場合に、この誰のものでもない、自分とか他人とかの区別がまったくない、非人称の〈生命〉というのはいったい何なのか、という問題です。「何なのか」というと、すでにそれを実体扱いして問うことになりすから、よくないですね。この〈生命〉をどう考えればいいのか。これは非常に重要な問いですから、皆さんはあまりこれを考えられたことがないかもしれないけれども、このサイ<sup>b</sup>これをじっくりと考えてほしいのです。ひよつとしたら、六回のコウギ<sup>c</sup>の終わりに、答えらしいものが出てくるかもしれません。

生命そのものは死なない。死ぬのは個々の生きものだけである。身体をもつことによって生命が生命の中へ入ってくる。

けっして死なない「生命そのもの」、それはどう考えればよい

のでしょう。というのも、「生命そのものは死なない」という<sup>注</sup>ヴァイツェカーの言葉は、直観的には非常によくわかる、「ほんとにそうだ」と思ってしまう言葉だからです。なにがそう思わせるのでしょうか。

そんなことを考えながら、あるときヴァイツェカーの<sup>d</sup>ジデン『出会いと決断』を読んでいましたら、そこにこんなことが書いてあるのを見つけました。

《身体を持つことによって、生命が生命の中に入ってくる。》

原文のドイツ語は、*Mit der Leiblichkeit kommt Leben ins Leben* です。生命 *Leben* が、生命 *Leben* の中に入ってくる。これはいったいどういうことでしょうか。ここに二つ出てくる「生命」という単語の最初のほうには、冠詞がついていません。つまりそれは特定の、だれかの、あるいは何かの生命ではないのです。これを読んだとき、私はとっさに、これは私が山カッコをつけて〈生命〉と書くことにしている、だれのものでもない、非人称の生命、実体的な「もの」ではない、「こと」としての生命のことだと思いました。

つまりここに二回出てくる「生命」の最初のほう、無冠詞で無規定の、だれのものでもない〈生命〉が、私が、あるいはある生物が身体をもつことによって、そこへ入り込んできて普通の意味の、山カッコなしの生命になるのです。そしてその後も、この生命が生き続けているかぎり、〈生命〉は絶えず生命の中へ入り続けているのです。「身体をもつことによつて」というのは、その生物が私とか彼とか彼女とか、あるいはこの犬とかあの猫とか、個々別々の個人あるいは個体として生まれてくることによつて、という意味です。個別的な、所有者のはっきりした身体は、〈生命〉がそれ自身を個々の生命へと限定する場所なのです。

そう考えることによって、ヴァイツェカーが『ゲシュタルトクライス』に書いた最初の文章、《生命そのものは死なない。死ぬのは個々の生きものだけである》に出てくる「生命そのものは死なない」の意味もよくわかるようになります。つまりこの「生命そのもの」「こそ、山カッコつきの〈生命〉、だれのものでもない、「こと」としての〈生命〉に他ならないのではないか、ということとです。〈生命〉はだれのものでもない、ということは特定の身体に宿っている生命ではない、あるときに生まれて一定期間生き続けて、そして死んで行くような生命ではないのです。だからそれは地球と運命をともにするような進化的な生命でもありません。死んで行くのはただ、そのような〈生命〉が個別の身体に入り込んで生まれてきた、個々の生きもの生命だけなのです。

注 ヴァイツェカー：二〇世紀前半に活躍したドイツの神経内科医。

五の設問

問一 ~~~~~線部 a ~~~~~ d に相当する漢字を含むものを、次の各群

の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a ソクザ

- 1 母が冷蔵庫の食材でソクセキ料理を作ってくれた。
- 2 子どもたちは明日のエンソクを楽しみにしている。
- 3 学校では決められたキソクに従って行動する。
- 4 疲れがたまったので少しキュウソクをとった。

b サイ

- 1 不正行為に対して厳しいセイサイを加える。
- 2 支払い方法として現金でのケツサイを希望する。
- 3 事件についてショウサイな調査結果が出た。
- 4 人間の欲望にはサイゲンがないと言われる。

c コウギ

- 1 ギョウギよく座って順番を待ちなさい。
- 2 その問題について友人と深いギロンを交わした。
- 3 彼は大きなギフンを覚えて、ついに告発した。
- 4 情報のシンギを確かめてから報道するべきだ。

d ジデン

- 1 弁当をジサンして須磨浦公園に集合する。
- 2 長い旅は、ジコと向き合う時間を生み出す。
- 3 条件がそろったことでジコウが正式に成立した。
- 4 公園では小さなジドウが楽しそうに遊んでいる。

問二 I・II にあてはまる組み合わせとして最も適

当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 I…考えないで II…名詞
- 2 I…考えて II…形容詞
- 3 I…考えて II…名詞
- 4 I…考えないで II…形容詞

問三 「ちょっと入っています」(——線部 A)とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「生きる」という語を安易に定義することはできず、明言することを避けようとするため。
- 2 「生きる」という語は日常的に多様な意味で使われるため、ここでの定義が唯一のものではないから。
- 3 「生きる」という語には文化によって様々な考えが含まれるため、あえて断定を避けようとしているから。
- 4 「生きる」という語を説明するにあたり、自分の考えを十分に整理できていないことを自省しているため。

問四 「一度きちんと考えてみていただきたい」(——線部 B)

とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 生命という言葉を、それぞれが自分の経験や気持ちのままに自由に考えてほしいから。
- 2 生命の意味を一つに決め、生命という言葉を正しく使えるようになってほしいから。
- 3 このあとで答えをはっきり示すつもりなので、それまでは深く考えずに読み進めてほしいから。
- 4 生命とは何かを安易に決めつけてしまうと、別の生命の在り方に気付けないから。

設問は、裏面に続きます。

問五 「これはいったいどういうことでしょう」(——線部C)

とありますが、その内容について説明した次の文の

A

・ B に当てはまる言葉として最も適当な組み合わせを、後から一つ選び、番号で答えなさい。

〈生命〉とは具体的な営みを超越した

A

な存在である

が、身体を持つ生き物が誕生したときに、その身体の内面に

B

生命力として分け与えられるものである。

1 A…多元的 B…個別の

2 A…多元的 B…不変の

3 A…概念的 B…個別の

4 A…概念的 B…不変の

問六 「死んで行くのはただ、そのような〈生命〉が個別の身体

に入り込んで生まれてきた、個々の生きものの生命だけなのです」(——線部D)とありますが、これはどういうこと

ですか。最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 〈生命〉は特定の身体に宿ることで個体の生命となり、身体が存在するあいだけその形を保つが、身体が消滅しても〈生命〉は残り続けるということ。

2 〈生命〉は個体ごとに生まれた瞬間から運命づけられていて、その個体の意思や行動とは無関係に一定の期間だけ続くように決まっているということ。

3 〈生命〉は身体に宿ると個体の生命としてあらわれるが、その個体が死ぬと〈生命〉自体は個体から離れて別の個体に移動するだけだということ。

4 〈生命〉は遺伝子や細胞のつながりとして進化の過程に保存され、個体が死んでも別の個体にそのまま引き継がれていくということ。

↓ここにシールを貼ってください↓

受験番号		

2026年度 須磨学園高等学校 入学試験解答用紙 国語

※	※	※	三	※	※	※	二	※	※	※	※	一
問五	問三	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)	問四	問三	問二	(※の欄には、何も記入してはいけません)	問六	問四	問三	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)
					D C	欲 哭 謝 公						
	問四	問二		問五					問五		問二	

※	※	※	※	五	※	※	※	※	四
問六	問四	問二	問一	(※の欄には、何も記入してはいけません)	問八	問六	問四	問二	(※の欄には、何も記入してはいけません)
			c a						
	問五	問三	d b		問七	問五	問三	II I	
								e a	
								III (り)	
								d	



2026SUMAS0110

※
---

※
---

※
---

※
---

※
---

※
---